ラ? ミュージカル? ジャンルを超えた傑作エンターテ

ード」の世



このキャラクターに注目!

狂言回しとして登場する原作者ヴォルテールは、18 世紀フランスの哲学者にして国民的英雄。芸達者 なエンターテイナーぶりで笑いをとりつつ、ときに鋭 い言葉を口にする、印象的な役どころ。

笑える!? キャンディードの"ぶっとび"大冒険

戦争、地震、火炙り裁判……次から次へと災難に巻き込まれたかと思うと、死んだはずの恋人が生 き返る!? 青年キャンディードの旅はあまりに奇想天外で、笑えるくらい破天荒。しかし、右往左往す る彼らの様はいつしか私たち自身とも重なり、ラストで主人公が"本当の幸せ"を見つける姿には胸 を打たれる。そう、「キャンディード」はウィットと人間愛に満ちた、大人のエンターテインメントなのだ。



| 戦争に巻き込まれ、クネゴンデは死んでしまう。傷心 2 戦争に零さ込まれ、フィーン・ルルルのカー のキャンディードは船旅に出るが、嵐で船が難破。



幸福」という師の教えを素直に信じる、 純朴な青年キャンディード。ある日、恋人のク デと良い雰囲気になったところを、彼女



大地震や火炙り裁判に巻き込まれる

死んだはずの恋人が、映画女優 4 として生き返る!?

キャンディードの旅は 波瀾万丈。 長い放浪の果でに青年が つかむものとは……? 旅の続きは劇場で!!



ろのひとつ。振付は、「モダン・ミリー」で2002年トニー賞 を受賞したロブ・アシュフォード。ロンドンの精鋭ダン サーたちによる、エネルギッシュなパフォーマンスが楽し める。クネゴンデ始め、歌手たちのダンサー顔負けのダ



大胆! おしゃれ! 1950年代のアメリカヘタイムスリップ!

18世紀フランスを舞台とした物語を、作品が作曲されたアメリカ黄金期の50年代から60 年代半ばに置き換えるという、鬼才ロバート・カーセンのユニークなアイデアが光る本作。 ステージを彩る輝かしいポップカルチャーで、気分は一気に50年代!! 当時の世相に批判 的な視点を内包し、観客にちょっとした思考を促す作品でありながら、華やかなエンター テインメントとしても楽しめるところがこの作品の魅力。

バーンスタインの美しい音楽を、 迫力のフル・オーケストラで!

本作の最大の魅力のひとつが、バーンスタインの音楽だ。ワクワ クするような序曲を始め、美しい愛の二重唱、クネゴンデの圧倒 的な歌唱力が楽しめる「きらきらと輝き朗らかに」、大迫力の合 唱など、魅力的なナンバーが満載。タンゴにワルツ、ジャズの要 素まで、ありとあらゆるスタイルを取り入れたバーンスタインの手

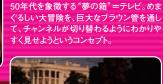


腕が、豪華フル・オー ケストラで堪能できる。 美しい音の洪水を、ぜ ひ劇場で体感して。



ケネディ大統領夫妻▶

キャンディードが物語の序盤で暮らすお城 は"ホワイト・ハウス"、城の主である男爵夫 妻は"大統領"と"ファースト・レディ"という 設定。男爵夫人のジャクリーン・ケネディ風 エレガンス・ファッションに注目。





客席に入るとまず目に飛び込んでくるのが、

マリリン・モンロート

世界を虜にした永遠のセックス・シンボル。ハリウッドの大物映画 プロデューサーの愛人となったクネゴンデが歌う「きらきらと輝き 朗らかに」は、モンローの代表作『紳士は金髪がお好き』(53年) のパロディーという演出。圧巻のショー・ストップ・ナンバーだ!!

